

□特集・總持学園□

仏教保育について

仏教保育とは、お釈迦さまのみ教えを基に慈心不殺・生命尊重（あらゆる生命あるものを大切にし、無駄にしない慈悲の心を育むこと）を根本理念とするものです。昨今の社会風潮を反映して、現代ほど心の教育が求められている時代はないであろうと思われます。全国に数多くの保育養成校がありますが、この仏教保育を科目の中に取り入れている所は少ないのが実情で

鶴見大学短期大学部保育科講師
(仏教保育担当)

佐々昌樹

す。鶴見大学短期大学部保育科では学科開設以来、建学の精神に基づくこの仏教保育を必修科目としていますし、昨年新設された仏教専修科でも選択科目とされており、各方面より注目されているところです。また学内には、みつる会という児童文化部があり、その活動の一環として夏休み中に全国各地で子ども会を主催して好評を博しております。この会の活動も仏教保育

の精神に基づいて行われております。

仏教は今から二千五百年程前に、お釈迦さまによって説き示されました。その正伝しょうでんの仏法である禪を道元禪師さまが中国から伝えられ、その教えを広め大本山總持寺を開かれたのが瑩山けいざん禪師さまです。お釈迦さまと道元禪師さま、瑩山禪師さまを、曹洞宗では一仏いちぶつ兩祖りょうそと申し上げますが、本学園は大本山總持寺によって設立され、一仏兩祖のみ教えに基づく教育をすることを目指しています。そして建学の精神として、「大覚だいがく円成えんじょう・報恩ほうおん行持ぎょうぢ：お釈迦さまのおさとり（大覚）にならって正しい智慧ちえを磨みがき、すべて



のものに思いやりと感謝の心をもって日々実践じっせん（行持）につとめるということ」を掲げています。

お釈迦さまのおさと

りとは、人間にはどうして苦しいことがあるのか、その原因と、苦しみを乗り越えていかに日々の生活を送るべきかを明らかにされたことです。自分が今日あるのは、想像を絶する、多くのご先祖さまより伝えられた生命いのちを受け継いでいるからです。そして他の多くの人々やもののおかげで生かされていることに気づくことによって、思いやりと感謝の心をもって真摯まじんに生きることこそが大切なのです。

私たちには、仏さまと同じ清らかな心―すなわち仏心ぶつしんと、三毒さんどくといわれる、貪とん（貪あまらりの心）・瞋じん（いかりの心）・癡ち（おろかな心）を合わせ持っています。この仏心に目覚め育はぐみ、三毒を増大させないようにする生活態度こそが大切なのです。このことは、理屈ではわかっていても、実際に実践するとなるとなかなか難しいものですが、これにまつわる問答があります。

唐の時代の詩人白樂天はくらくてんが、道林禪師に参じて

禪の修行をしていた時のことです。白樂天が仏法の大意を尋ねたところ道林禪師は、「諸悪莫作衆善奉行 自淨其意 是諸仏教」と答えました。これは、悪いことは一切してはいけない。

良いことはすすんでしなさい。そしていつも自分の心を淨らかにしなさい。このことこそ仏さまのみ教えですという意味です。これを聞いた白樂天は、そんなことは三歳の子どもでも知っていることで、そんな簡単なことを聞いたのではありませんといました。すると道林禪師はたとえ三歳の子どもが知っていることでも、八十歳の老翁でも実践することは難しいとお諭しになり、白樂天は己の未熟さを恥じたというのです。

子どもと保育者共々に、仏心に目覚めきちんとした基本的な生活習慣を身につけるべく、保育目標を設け、心静かに落ち着いて生活することこそ、仏教保育の眼目といえましょう。そして、



鶴見大学全体がこの精神に基づく学園なのです。